様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２１年　６月２２日現在

研究種目：基盤研究（Ｃ）
研究期間：2005～2008
課題番号：17520088
研究課題名（和文）　身体儀礼としての神仏習合像の基礎的研究

研究課題名（英文）

研究代表者
長坂一郎

研究成果の概要：
身体儀礼としての坐法、手勢および立礼の見地から神像の形態を検証した。その結果儀礼としての坐法を示すものは初期神像に見られるが、平安時代中期以降は見られなくなく傾向にあった。女神像に特徴的な坐法とされてきた片膝立ての坐法が男神像にも見られた。手勢については僧形神像における手勢は２種類に分類できる可能性が認められた。立像神像については立礼の形態を示すもの以外の例も認められた。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００５年度	1,600,000	0	1,600,000
２００６年度	500,000	0	500,000
２００７年度	700,000	210,000	910,000
２００８年度	700,000	210,000	910,000
年度			
総　計	3,500,000	420,000	3920,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：哲学　美学・美術史
キーワード：神仏習合、神像、身体儀礼

１．研究開始当初の背景
一般的に神像は簡素な形であり造形的要素は仏像に比べて少ない。しかしその少ない要素も各部分を追うことで細かく具体的な意味を理解できるのではなかろうか。そこでここでは坐法、手勢について身体儀礼の観点から解釈を試みる。

２．研究の目的
神像の坐法はさまざまあるが、儀礼としての坐法にはどのようなものがあるのかを確認する。その中のある種の坐法を神像が為しているとすればその神像は儀礼的意味を有していることになる。同様なことは手勢についても考えられる。
また服装については服制は儀礼の一部であり神像にとってもその検討は欠かすことはできない。さらに神像には少ないながらも立像が存在するがそれも立礼の見地から検討する。

３．研究の方法
神像の実地調査
平成 17 年度―二上射水神社、白山神社、法住寺、平成 18 年度―琵琶湖文化館（金勝寺）、栗東歴史博物館（小槻神社、八坂神社、大宝神社、椿神社）、正楽寺、大和文華館、平成 19 年度―奈多宮、竹林寺、平成 20 年度―報告書作成

４．研究成果

俗体男神像の坐法のうち結跏趺坐は中央の神社だけではなく地方の神社でも平安時代中期まで行なわれていた。

女神像の坐法として特徴的な片膝立て坐法は男神像でも見られた。

僧形神像うち三尊形式のものの手勢は２種類認められた。また独尊像は三尊形式のものとは手勢が異なっていた。

立像神像は立礼を示すものとそれ以外の形態のものがあることが指摘できた。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　０件）

〔学会発表〕（計　０件）

〔図書〕（計　０件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計　０件）

○取得状況（計　０件）

〔その他〕

６．研究組織
(1)研究代表者
長坂　一郎
東北芸術工科大学・芸術学部・教授
研究者番号：60275617

(2)研究分担者
なし

(3)連携研究者
なし